

核兵器禁止条約が国連で採択へ

8月のヒロシマ、ナガサキへ核兵器禁止の声ひろげよう

ヒバクシヤのねがい、国連へ



6月15日から核兵器禁止条約交渉会議・第2会期が国連本部で開かれています。7月7日が会期末です。

会議に参加した被爆者の代表が、核兵器を禁止し廃絶する条約を求める「ヒバクシヤ国際署名」296万余の目録を6月16日に交渉会議の議長に提出しました。議長は、「本当に重要で印象的です」と涙を浮かべて受け取りました。

会議では、核兵器禁止条約の具体的内容について、活発で前向きな討論が積み重ねられてきました。核兵器廃絶に道筋をつけるために、まず核兵器を禁止する条約を7月7日の会期末までにつくるべく、120カ国を超える国々や国際機関、NGOなどが力を尽くしてきました。

日本政府の姿勢を変えよう

核兵器禁止条約が採択されると、「核兵器のない世界」に向けた新たなステージがはじまります。交渉会議に参加しなかつた核保有国や依存国の政府に、条約に加わるようもとめることが重要になります。カギを握るのは、それらの国々の国民の声と行動です。

残念ながら、被爆国日本の政府は、3月におこなわれた交渉会議・第1会期に引き続き第2会期にも参加しませんでした。北朝鮮の核ミサイル開発を口実にしていますが、核兵器禁止を

拒否する理由にはなりません。東アジアで条約交渉に反対したのは日本と韓国だけだったのです。

交渉会議では、被爆者など日本の市民社会の参加が、会議成功の力になりました。いっそう「ヒバクシヤ国際署名」を集めて、今度は政府の姿勢を変えようではありませんか。署名への「協力をお願いします。(2017.7.6)

